

平成29年度（第23期）にいがた市民大学
「新潟の川・潟とくらしー水との共生のあゆみー」公開講座
「近代文明の矛盾・水俣病を映画「阿賀に生きる」を鑑賞しながら考える」実施概要

【会場】 新潟市民プラザ（新潟市中央区西堀通6番町866番地）

【日時】 平成29年6月25日（日） 午後1時～午後5時（開場 12時30分）

【講師】 大熊 孝 氏 （新潟大学名誉教授・新潟市潟環境研究所所長）
小林 茂 氏 （「阿賀に生きる」カメラマン）
旗野 秀人 氏 （新潟水俣病安田患者の会事務局長）

【参加者】

合計96名
（内訳）

- ・ 講座受講生 53名
- ・ 一般参加者 40名
- ・ 関係者 3名

【内容】

講座前半は、映画「阿賀に生きる」（佐藤真監督・1992年製作）を鑑賞しました。受講生は、阿賀野川沿いの自然と共生してきた人々の日常を描いた映画を熱心に見入っていました。

講座後半の鼎談では、『「阿賀に生きる」に学んだこと』と題し、新潟水俣病と映画解説をしていただきました。映画制作のはじまりについては、旗野秀人さんが仕掛け人となり、佐藤真監督に撮影の依頼をしたお話や全国1500人からの募金3000万円と借金1000万円で製作したお話をお聞きしました。撮影中の裏話だけでなく、阿賀野川の特徴や新潟水俣病についても解説をしていただきました。

日本には古くから、「山川草木悉有仏性」（人間だけでなく自然の中のあらゆるものには仏の心があり、みな平等）という考えがあり、その中でも人間だけが「私」、「欲」があり、平等から外れた“うしろめたい”存在になっていると大熊先生はお話になりました。そのため、せめて死後、自然の中に還って浄化されたいと願うようになったそうです。「阿賀に生きる」には、その「魂が還りたがっている時空間」が表現されていると鼎談を締めくくりました。

最後には受講生との交流もあり、「阿賀に生きる」に学んだことを共有する時間となりました。

